

図画工作科の授業の考え方

【2018年2月に三根先生が来校した時に教えてくださったこと】

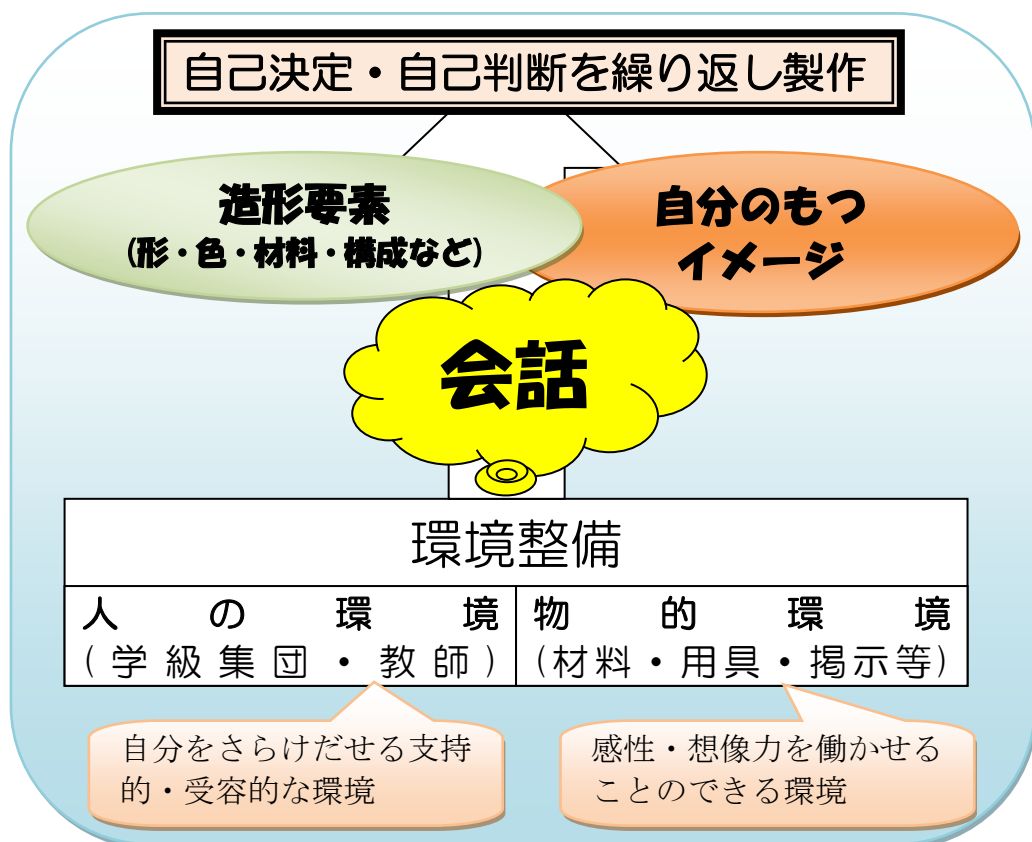
○図画工作科における見方・考え方とは

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自己のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと。

「自分」が出てくる回数
旧指導要領 「270」
新学習指導要領 「535」

自分で作り出していく
作品を通して、「自分」をつくる

○自分でつくる、自分をつくる図画工作科にするための授業改善のポイント



○様々な造形要素と自分のイメージをどう組み合わせるか、自己決定・自己判断させながら進めることを大切にす
る。
○制作過程での会話を大切にし、会話を通してイメージを引き出してあげる。
○イメージをふくらませるために、層を広げてあげる。(指導ではなく提案する)

自ら学び、よりよい社会を考えようとする子どもの育成

～自ら問い、考え、対話し合い、対話し合う授業づくりを通して～

図画工作科



やってみたい
作ってみたい
と思うしかけ

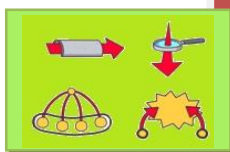
子どもたちの**表現欲求**を高める出会い

ワクワク問いたくなる状況作り（思考が動き始める自動装置）

題材との出会い⇒感動や驚き

・えーすごっ!!
・どうやってやるん?
・私も作りたい!!

見方（視点）
形や色などの
造形的な特徴



子供による学習課題、学習計画設定

ゴールまでの見通し

こんな道具がいるな～。これぐらい時間がいりそうだな～。

イメージを引き出す対話

制作過程での対話を大切に
し、対話を通して子どものイ
メージを引き出す。

- ・自分との対話(じっくり考える)
- ・他者との対話(話しながら考える)
- ・環境との対話(材料や道具から考える)

う～ん。こうしたいんだけど、どうすればそんな風に見えるようになるかな。

造形要素
(形・色・材料・構成
など)

**自分のもつ
イメージ**

考え方（方法）
比較・関連・統合等

造形要素と自分のイメージをどう
組み合わせるか、自己決定、自己判
断を繰り返しながら進める。

これを使ってみたら自分の
イメージ通りに作れる
かな。

自己決定・自己判断を繰り返し製作

鑑賞

見方や感じ方を広げる

うん、できた。これ
なら私は納得だ。

人のイメージを受け入れるだけでなく、
そこで自己判断、自己決定を促し、イメ
ージをもちながらその意味や価値を作り出す

意味づけ・価値付け

こんな組み合わせだからこん
な感じに見えるのか。

自分の考えの
ふりかえり
(変化の自覚)

こんな形にすれば、こう動い
ているように見えるのか。

**深い学び
＝教科目標の実現**

**イメージのともなった知識
＝汎用的な資質・能力に**

イメージをふくらませるために、層を広
げてあげる。

(指導ではなく提案、選択肢を増やす)

造形環境の整備

可	視	環	境	不	可	視	環	境
(空間・材料・用具など)				(学級経営・時間・情報など)				